

YTV

J0IX-TV

YTV 放送台本

放送日時

昭和二十七年三月六日

午前十時四十五分

〜二時十五分

# 童話百年

― 目で見る児童文学史 ―

为一回 明治の御代と児童文学

出典 鳥越

有本 芳  
池田 蘭

信水子

様

制作 よみうりテレビ制作部

カヌラ

画

面

音

響

こがぬ丸 表紙 UP

めくる 口絵

M

ア ナ こがぬ丸 表二回

ニニル . . . .

音  
声

F0

明治時代から 昭和ま  
での子供風俗の写真を  
地にタイトル

童話百年

目でみる児童文学史

お一回

明治の御代の  
児童文学

M  
—  
T  
—  
M

明治時代から 昭和ま  
での子供風俗の写真を  
地にタイトル

童話百年

目でみる児童文学史

お一回

明治の御代の  
児童文学

M  
ー  
テ  
ー  
マ

F.O

制 作

よみうりテレビ

角本芳水  
元日本テレビ編成部長

池田蘭子

立川文庫作家

出 演

鳥越 信

早大講師 蘭子

鳥越

WS

子供のおめの文字の尸史は 人間解教の尸史であるといわれています

子氏の頭では とても理解出来ないような孔子様の教之を漢文で丸暗記したり 子供は読み書き ソロハンさにおぼえればよいしい

親に口答せせず たる孝行にはけみ 主人にしにがえはよりという 寺小屋式の教育が行われていた時代には 人間の自由とい

うものはありませんしね

その時代に合った型にはまっただけに人間しか育たなかったのです、

もちろん 子供のための文学など考えてみる人もいなかったわけさ、

こんなわけで 児童文学のありみをたずねることは 近代日本の歩んだ道をたどることにはほかなりません

今日から毎週この時間 児童文学の戸をひらきかえってみることにしました



下

小 友  
字 真

さきほど 朗読したのは 日本のおとぎは  
なしの父といわれる 藤田小友の「こかぬ  
丸」の一篇です。 明治三十四年に刊行  
されたもので、一般に日本の近代児童文学  
のオーストリアとされています。  
これかオーストリアになったということは、その  
後の児童文学と見ていく上で、大変重要な  
意味をもっているのです。

小友は、当時硯友社所属の新進作家でした。  
この本は、博文館の企画して、「少年文学」  
双書のオーストリアとして出版されたものでしたか。

手もと 本

尾崎紅葉の「二人棕助」 止田美妙「雨の

白くらし」 幸田露伴「二宮尊徳翁」など

綴葉あり 少年小説あり 尸史小説あり

伝記 史論ありの ハラエテイはとんだ

全三十二巻の双書が出ました。

「こかね丸」口中でも圧倒的な人気で 今

日ごいうハストセラにはなりました。

海軍中將子爵の小笠原辰生の思い出による

と 当時海軍少尉になりたての小笠原が

この本を持って清水次部長親分をたづねる

と 以前から親しい間柄だった次部長親分

この本をみて 「黄金丸をあくすりかね」

と行ったという。そこで小笠原がこの小説を読んで聞かせると、フム、フムと感心して聞かされていたそうだ。

あるいは、大政、小政や森の石松もいたかもしれない。ところで、この本は「里見八犬伝」と、ゲートの「ライネケぎつね」をないませにして書かれたもので、いかに

も江戸時代、作者風な物語である。しかもそのテーマは仇討が中心になっている。さらに文体は、文語体で書かれている。

そんなことから、この本は評判りよさと同様に、いろいろな批判もあつた。

小 公 子

たど之は、文語体については「文体論争」と呼ばれる論争が起って、ウラには小波自身か口語体<sup>コゴ</sup>に書き改めたりした。こうして中で、もつとも手きびしい批判をしたのは、時のクリスチャンです。

アナ その一節を朗読

クリスチャンは「こかね丸」のテーマについて、きびしい批判をした。

その代表的な一人、植村正久は「猛虎金眸<sup>トウシ</sup>か、照射<sup>トウシ</sup>といえる牝鹿をもて毒とさせる

# 小 公 子

件などは幼童のために作りせる書にあらま  
じきことと思ゆる」とはゆしく非難し  
ている。明治時代のクリスチャンは  
近代的な家庭観、児童観の立場から、子と  
もり読みもめについて「喜ばしき  
おとすね」（明治）を出すなど、活動を  
していたが、そうした中の一人、若松しず  
るは、「女子雑誌」に連載した「ハーネット女  
史原作の『小公子』を、『こかね丸』にあ  
く川ること一年の明治二十五年に出版して  
いる。

この本も「こがね丸」と並ぶベストセラーになった。名訳といわれる若松しん子の文章もさることながら、やはりこの物語のもつテーマが、特に当時のインテリ階級に受けられたものと思われる。 異邪な

少年主人公セトリックとその母とめぐるアメリカ的な民主主義と、イギリス的な貴族主義のかつどうを描いたこの作品は、キリスト教的世界観をいろいろ出しながら、同時に新しい親子の関係、家庭のありかたを著く主張して、日本の知識階層にアピールしたわけである。

ほぼ 時を同じうして 創作と外国作品、  
 作者風な文語体とハクカラな口語体のは  
 んやく 決つちといつ封建的なテーマと  
 近代的な児童観による親子関係 といつぐ  
 みに ことごとく対照的な二つの児童文  
 学か出てきたことは 興味があり 又そ  
 こに当時の日本社会事情 特に教育事情  
 の反映が見られる。

小学唱歌  
表紙

目  
小学唱歌

明治維新以後 政府は新しい時代に足  
した種々の政策をおし進めたが、その一つ  
に教育制度の確立と普及があつた。

明治三年に小学女規則が定められて、日本  
の教育は義務教育となつた。これは、これ  
だけ



丁

教育勅語

へんな進歩をたつた。けれども時の政府は  
一方に於てそのような教育の解放を進め  
ながら 一方においては 絶対的な教育理  
念を、それを一定の方向に強力にひっぱつ  
ていこうとした。

甲アナその総は上ルが 明治二十三年に発行され  
た教育勅語である。

教育勅語によつて示された教育理念の中心  
は 忠君愛国を頂点とする 絶対王義的な  
国家体制に対する教育の奉仕ということだ

平たくいへば、教育を受ける子供たちが大きくなつたときには、時の権力者たちのいひなりになつて國家の政策に忠實に従う人向を作るのかぬらひである。つまり、子どもを國家や為政者の從屬的な存在と考へた点では、封建的な兒童觀——女子どもという形で、親や主権者の從屬物と考へていた、封建的な兒童觀からは一歩も前進してはいないのである。

こゝしに兒童觀を對して、もううへ批判的

日考之も当然出てきた。その一つの例は  
福天諭吉であらう。

諭吉は「福翁自伝」の中々次のようにい  
っている。「そのくつけ方は温和と活発  
とを旨として、大抵お所までは、子ども  
自由のままかせる。例之は風呂の湯を熱く  
して湯理を入れるようなことはせまじ。堀  
風呂の側に大きな水桶を置いて、子供の勝  
手次第にぬるくも熱くもさせる。――」

このやうに明治時代の教育事情の中には  
大きく対立する二つの児童観があった。

そして、この二つの流れは、そのふもすつ  
と尾をひいて終戦にまで至る。そして  
子供のための、文學もまた、当然その二つ  
の流れの影響をさまざまに形を受けながら  
発展してきたのである。

小友の「こかね丸」に、古い児童観の影響  
があり、「小公子」の児童観に、それに対  
立している。

明治風俗

写真

M 小学唱歌

Q

さて教育や児童観の問題に 単にそれが  
児童文学に反映するといふわけではなく 児  
童文学そのものと生み出す上にはいりても  
重要なファクターになる。

かつ 子供の本が生まれるためには ま  
す 出版社という資本主義的な経営り形が  
生まれ 同時に商品としての本や雑誌を  
買ふことのできる人口が小えるといふ経済的

## 少年園

な基盤、二はくめには早く大量に印刷  
か出きる印刷技術の発達 といつような背  
景か とうしても必要だが この二つは別  
に 子供の本に限ったことではない。

子供の本はとつてとうしても必要なのは  
教育制度が確立普及し そのために子ども  
の読物の需要が小へることである。

日本の児童文学の歴史が明治時代に始まる  
りも そのあらわれである かし その歴  
史を辿ってみると ます明治三十一年に  
「少年園」という雑誌が発行された。こ

れか日本にもける最初の児童雑誌である。  
その発行のことは、次のよつに書かして  
ある

教育のことは、ひとり直接なる学校教育の  
かたによるべからず、家庭の教育も亦一  
大勢力なり、社会の教育も又一大勢力な  
り、而して、実に印行書類——つまり  
児童雑誌もといふことだが——  
の教育に及ぼす力も、これ又一、大勢力な  
り、  
やはり教育との関係が、はっ  
きり出ている、うちにこの雑誌に、投書ら

人たり独立させて「少年又厚」というのを  
とせしている。

翌明治二十二年に創刊されたのが「小国  
民」石井研室という人が主筆で「少年  
園」と同じくイギリスやアメリカの児童  
雑誌をよ手本にした論集としていた。

論説や科学記事から小説にわたる。ははの  
玄い総合的な雑誌である。「この雑誌は

明治二十九年九月に創設された「あゝ、盛国」とい  
う文章が、時の政潮を批判したこの「こ  
こ」が発売禁止になった。ちよつと詠んで



みましよう

児童雑誌が發刊になつた 最初の事件  
である。そのため「少国民」と改題  
した。

翌明治23年に「少年又武」が創刊され  
た。こゝは中川露城という人が主筆  
で、題名からもわかるように「少年  
團」や「少国民」とちかつかつて  
日本的な編集をしている。つまり日本  
百来の武士道精神と編集方針としたわ  
けである。

少年之工

同し乎 日本で最初の創作単行本「少年之工」が出てゐる。この本は大日本教育会が景買募集した少年小説の当選作で、作者の三輪弘 という人は、當時の大金で、金十円でもらつてゐる。内容は国吉、炭吉という喜童と悪童と主人公に、学校と家庭との日常生活を描いたもの。全五冊にわかれてゐる。こゝもまた はっきりと教育の實際を写してゐる。

「こつぱ」「少年團」「小国民」「少年

# 筆 戦 場

文武」などの児童雑誌は、<sup>(1)</sup>業的な児童雑誌

誌とはいひなかり、むしろ夫々の編集主幹

を軸とした雑誌だった。本来の意味で

商業主義のヘースにめった出版活動を始

めたのは、明治二十年に創設された博文館

である。博文館では、今野別の雑誌を

出す中で、明治二十二年に「日本之少年」

を創刊、つづいて「幼年雑誌」さらに

「日本全国小学生筆戦場」などの少年雑

誌を出し、さらに、さきあげた「少年

文学双書」や「幼年文学双書」を出し

た。

この「幼年文学双書」は「少年文学双書」の成功に氣をよくして企画したものだが、柳の下にトジヨウはニひき居ず、あすか二冊で終ってしまった。その原因は、変体かなを使つたりなどして、あまりに興味的に流れたからである。

明治25年 日清戦争の勝利といつ背景のもとに、博文館にそつと出している「ピタゴラス読や双書」すべて大人ものは「太陽」などもとりは「少年世界」の二つの雑誌に統合し「太陽」に高山千ヨ中

「少年世界」に巖谷小波を主筆としてお  
えら。出版界のヘゲモニーをにぎるため  
の大手筋だったか。この英断が当ってそ  
れまでに発行部数二 三千から七八千に  
つたのか。一挙に万単位にはぬ上った。

「少年世界」の呼びぶものは、巻頭の「小波お  
とぎはなし」だったか。小波はまた、別に「  
日本昔新」「日本お伽新」「世界お伽  
新」などの双書と次々に書きふろして出版  
した。また「日本一の画新」など  
日本で最初の絵本なども出した。

こうした雑誌以外の単行本では、ホーヤク  
ものとおとすわけにはいかなり。

「小公子」につけては、先にいつたが、明  
治の初期の子供の読みものは、「ロビンソ  
ン」「クルーソル」「イソソフ」「アラビ  
アン」「ナイト」「ジュールベルヌ」か「小説」  
などだった。

最初は大人と子どもとの読者が未分化だった  
か。「小公子」「十五少年」あたりか  
らは、きり世界の古典的な児童文学の紹介  
かはしまった。「家なき子」「若草物語」  
などすべて、このころに出てくる

立川文庫

朗  
誦

森田思軒氏の「十五少年」は特に影響が大  
きく、押川春浪の武俠小説を生んだ。  
また、この派小が日本的な講談と結びつい  
たのが有名な立川文庫である。  
きょうは、サルトビはしめ英雄の生みの親  
也田ラン子さんに来ていただいた。

対  
談

、 意 ㊦

○ 夕不は

○ 創造した人物

、 云いまゆし

・ 表ゆき

○ 人 気



少年

さて 又 話題を雑誌にもとすと 博文館  
の独走に対して いくつかの競争誌があら  
わゆる。

ます明治35年に 金港堂という教科書会社  
から 「少年界」 「少女界」が発行され  
た。 ここにはじめて 男女別の雑誌が  
出たわけである。

また表紙に はじめて多色印刷を使用した  
つづいて時事新報社から 「少年」と「少  
女」 そして新大出版社の「実業の日本  
社」から 「日本少年」と「少女の友」

少女

また博文館自体も「幼年世界」「少女世界」というくみ分け、新しい雑誌の時代が始まった。「幼年世界」によつて、年令別り雑誌が登場し、読者のわくが一層ひろがる。各雑誌は、夫々の編集者を中心には、新しい競争かくりひろげようとした。明治の末から、大正にかけて、王座をほこつた博文館の雑誌は、次に実業之日本社によつてとつてかわられる。その原動力になつたのが、「日本少年」の編集長であり、かつ詩人として、毎号少年詩をりせて、読者の人気をさらつた有本守水氏であつた。

日本少年

芳水詩集

(最近)

これらの詩は、めづりに「芳水詩集」として  
まとめられたが、川端竜子、竹久夢二のさ  
し絵をそそぐ巻頭の詩は、多くの読者によ  
って朗読された。

対談 有本 芳水

。 当時のこと

編集長就任

さし絵

方  
針

詩  
—  
衣

さし絵の  
思ひ出

投  
稿家

カン治郎

林 秀 雄

伊藤 大 輔

ア  
ナ  
詩の朗読